

総合評価委

技術ダンピングで対応策

12月めど評価上限値設定

国土交通省は7日、「公共工事における総合評価方式活用検討委員会（委員長・小澤一雅東大大学院工学系研究科教授）」の第13回会合を開いた。総合評価方式で過度な技術提案を求めるいわゆる技術ダンピングへの対応策を12月をめどにまとめる。評価の上限値設定や過大なコスト負担を伴う評価項目のあり方、要求レベルにそった評価方法を検討する。また、委員会で10月中旬以降に発送する受発注者への総合評価方式についてのアンケートも了承した。2009年3月の第16回会合までに受発注者へのアンケートを踏まえた総合評価方式の改善策をまとめる。

技術ダンピングは、要求水と現場条件によって施工内容に対して過度な技術提案を要求すること。例えば、トンネルの余掘量やトンネル施工日数の短縮の提案では、地質な大きく変わる可能性があり、提案を達成できなかったり、提案を達成できなかった場合の施工者のリスク負担が大き過ぎる。

高品質コンクリートの提案 先の河川がきれいなため上限を求めた場合などは、工事費値を設けず提案を求めているに比べてコストが過大にかかることもある。工事現場から上の高い提案を助長している排水の水質について、排水という声がある。

「こうした技術タンピングへの対応として委員会は、提案内容と予定価格に大きな乖離（かいり）がでる場合に数値で評価することがよいか、妥当性を検討する。数値評価ではなく、品質確保の手順を評価したり、評価しない提案を明示するなどにも検討し、評価項目設定の考え方をまとめる。

排水の提案など規定基準より高い水準を求める場合の対応は、上限値設定などの考え方を検討するとみられる。提案要求で「望ましい」とする項目と必要である項目の評価方法も委員会が協議する。

7日の会合では、上限値の設定について「上限値に應札者が集中するため、慎重にすべし」と評価する傾向が「上限値を公表せずに、評価すれば良いなどの意見が上げられた。国交省は、「上限数値を設定するのが良いかも含めて検討している」と回答した。

このほか、加算方式と除算方式の概念や評価値算定方式の特性、工事成績評定による効果も08年度内に検証する。